

陰徳陽報（人知れず善行を積み、必ずよい報いを得る）

1 2学期は「学校行事」で「道徳性・社会性」の向上を図る

→ 一人一人に活躍の場（輝く場）をつくる

2 ポストコロナ期における新たな学びの在り方について（教育再生実行会議 6月通知）

○「はじめに」より

- ・幸福度・自己肯定感や当事者意識が低い。この意識を高めるにはどうすべきか。
- ・過度な横並び意識を排して如何に一人一人の自律と社会における多様性を高めていくか
- ・想定外の事象と向き合い対応する力や不透明な未来を切り拓く力をどう涵養していくか

3 「感染防止」と「学びの保障」の両立

→ ○ オンライン活動（タブレットの利活用）は国際社会要請（基本）

△ 文部科学省の「GIGAスクール構想」だから

4 東京オリンピックの発信内容をバランス良く語る

○「敗者」と「勝者」 「感染防止」と「競技」 「アスリート」と「ボランティア」

○心に残る言葉 大野将平選手（柔道男子 金メダル）

「（天井を見上げ続け）柔道人生は長くない。光景（日本武道館）を焼き付けたい。」

「自分を倒す稽古に励みたい」

「（金メダルを決めた直後に汗まみれのままで）開催に賛否両論があるのは理解しています。われわれアスリートの姿を見て、何か心が動く瞬間があれば本当に光栄です。」

5 「信用」と「信頼」の絆があつてこそ、安心・安全な学校運営が進められる。

6 働き方改革（遠藤功著「生き残る会社 食える仕事 稼げる働き方」より）

○「生産性」と「創造性」の2つの視点で働き方を見直す。

○「生産性が高まると同時に、ユニークな発想、斬新なアイデアが次々と生まれ、新たな価値が創出されることこそが、真の意味での働き方改革である」

7 医療従事者（命の最前線 24時間体制 医療の「プロ」） ⇔ 教員（教育の「プロ」）

○プロとしての誇り 「健全育成」と「学力向上」の使命 ⇨ 豊かな心 「ゆとり」